

平成27年度

# 事業報告

自 平成27年4月 1日  
至 平成28年3月31日

公益財団法人 名古屋国際芸術文化交流財団  
(名古屋ボストン美術館運営財団)

# 内容

はじめにー活動の概要ー	1
沿革	2
I. 展覧会事業	3
(1) 第35回展「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展ー印象派を魅了した日本の美」	3
(2) 第36回展「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクトー明治ニッポンの美」	4
(3) 第37回展「ボストン美術館 ヴェネツィア展ー魅惑の都市の500年」	5
(4) 第38回展「ルノワールの時代ー近代ヨーロッパの光と影」	6
II. 教育普及・情報提供事業	7
1. 印刷物	7
2. 制作物	8
3. 講演会・関連イベント	8
4. 学芸員によるミニ・レクチャー	10
5. 大学・その他との連携事業	10
6. ボストン美術館との共同教育プログラム（日米アート交流プログラム）	11
7. ボストン美術館芸術大学（SMFA）との交流	11
8. レクチャー、出張講座、学校教員研修会、愛知県鑑賞学習普及事業への協力	11
9. 資料交換	11
10. 広報・販売促進 イベント	12
11. その他情報提供事業	15
III. メンバー及び法人賛助会の状況	16
1. 個人メンバーシップ	16
2. 法人賛助会員	16
3. 学校法人賛助会	16
IV. 企画展検討委員会	16
V. ミュージアムショップ事業	17
VI. 展覧会入場者数	17
VII. 組織等の状況	18
1. 組織図	18
2. 顧問・評議員・役員	18
3. 職員	19
4. 評議員・役員の異動	20
5. 職員の異動	20
6. 評議員会・理事会開催状況	21
附属明細書について	22

## はじめにー活動の概要ー

名古屋ボストン美術館に対しまして多大なるご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。これもひとえに愛知県民、名古屋市民、そして評議員・理事・監事をはじめ多くの方々のご支援の賜物であり、心から感謝を申し上げます。

さて、平成 27 年度の事業報告を総括しますと、年間の来館者目標 14 万 7 千人に対し約 14 万 3 千人弱となり、目標比マイナス約 4 千人となりましたが、引き続き経費節減等の努力を継続しており、従来 of 長期収支計画に沿った堅実な財務運営を維持しております。

今年度は、まず昨年度から継続して 5 月初旬まで「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展ー印象派を魅了した日本の美」を開催しました。本展では 19 世紀後半から 20 世紀初頭に西洋で大流行した「ジャポニスム」に焦点をあて、西洋の芸術家たちが日本美術から何を学び入れ、新たな美を創造したのかをボストン美術館の名品から厳選された約 150 点を通して紹介しました。本展の主力作品で修復後世界初公開となるクロード・モネの大作《ラ・ジャポネーズ》は、メディアの注目度も高く、数多くの関連イベントも実施しました。会期中の来館者は約 7 万 8 千人となり、まさに 15 周年記念の年を締めくくるにふさわしい展覧会となりました。

次に、6 月初旬から 8 月末にかけて開催した「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美」は、19 世後半、開国後西洋文明に衝撃を受けながら近代国家へ変貌していく日本と、幕末明治期に来日した西洋人が日本人と日本美術から受けた衝撃という双方向の衝撃＜ダブル・インパクト＞を探る展覧会となり、近代日本美術を語る上で重要なコレクションを所蔵するボストン美術館と東京藝術大学から、絵画、錦絵、工芸、写真約 150 点により「明治ニッポンの美」を紹介しました。本展は平成 27 年度中に東京藝術大学で開催され多くの来館者を集め、当館においても“ダブル”講演会、日米アート交流プログラム等のイベントを開催し約 4 万 4 千人の来館者を集めました。

9 月中旬から平成 28 年 2 月下旬まで開催された「ボストン美術館 ヴェネツィア展ー魅惑の都市の 500 年」では、世界屈指の観光都市ヴェネツィアが繁栄を謳歌した 1500 年前後に活躍した 16 世紀ヴェネツィア・ルネサンスの芸術家や、ヴェネツィアの虜になった 19 世紀の印象派画家たちの作品、そして現代までの約 500 年間に生まれた絵画・版画・水彩画・写真・衣装・工芸品をボストン美術館所蔵の約 130 点の作品で、ヴェネツィアの芸術文化を紹介しました。会期中は、カーニヴァルをテーマにした企画の他、多くのイベントを開催し約 6 万 1 千人の来館者が訪れました。本展は平成 28 年 4 月から 11 月にかけて広島、佐川、新潟の 3 美術館を巡回します。

続いて、平成 28 年 3 月中旬から開催している「ルノワールの時代ー近代ヨーロッパの光と影」では、産業革命後の 19 世紀後半から 20 世紀初頭、社会が劇的に変化したヨーロッパにおいて、「都市」と「田舎」のイメージが人々とともにどう移り変わっていったかをボストン美術館のコレクションを中心とした 89 作品で、ルノワールと同時代の芸術家の視点から探ります。また、この時代を代表する作品として、ボストン美術館で最も愛されているルノワールの《ブーヅァルのダンス》を公開しています。本展は平成 27 年度中に約 8 千 4 百人の来館者を集め、本年 8 月 21 日まで開催いたします。

今後の展覧会については、企画展検討委員会で内容を協議・決定し、広報・営業推進活動を積極的に進め、県民市民の皆様にご満足いただけるような展覧会の開催に向けて更に努力いたします。皆様のより一層のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

平成 28 年 5 月 公益財団法人 名古屋国際芸術文化交流財団  
(名古屋ボストン美術館運営財団)

## 沿革

- 平成 3 年 10 月 名古屋商工会議所常議員会で、名古屋ボストン美術館設立プロジェクトの推進と設立準備委員会設置を決定
- 平成 3 年 11 月 第 1 回「名古屋ボストン美術館設立準備委員会」を開催、準備委員会委員長に加藤隆一名古屋商工会議所会頭（当時）を選任
- 平成 3 年 11 月 米国ボストン美術館と「名古屋ボストン美術館設立準備委員会」との間でレターオブインテント（覚書）調印
- 平成 4 年 4 月 小倉忠夫前京都国立近代美術館長が、準備委員会常任顧問に就任
- 平成 4 年 6 月 米国ボストン美術館が名古屋商工会議所・準備委員会に対して、同美術館振興に最も貢献した人に贈る称号「グレート・ベネファクター」を授与
- 平成 7 年 3 月 愛知県、名古屋市の本プロジェクトへの支援決定
- 平成 7 年 8 月 運営財団の設立発起人会組成 伊藤喜一郎を発起人代表に選出
- 平成 7 年 11 月 愛知県・愛知県教育委員会の許可を得て「財団法人名古屋国際芸術文化交流財団」設立、伊藤喜一郎発起人代表が理事長に就任
- 平成 7 年 12 月 小倉忠夫準備委員会常任顧問が名古屋ボストン美術館館長に就任
- 平成 7 年 12 月 米国ボストン美術館と当財団が名古屋ボストン美術館設立契約に正式調印
- 平成 8 年 2 月 「金山南ビル」の起工式実施
- 平成 10 年 10 月 名古屋ボストン美術館メンバーシップ制度発足
- 平成 10 年 11 月 名古屋ボストン美術館が入居する「金山南ビル」完成
- 平成 11 年 4 月 名古屋ボストン美術館開館
- 平成 12 年 1 月 法人賛助会員制度発足
- 平成 12 年 4 月 浅野徹名古屋芸術大学教授が館長に就任
- 平成 12 年 5 月 徳光彰二理事が理事長に就任
- 平成 13 年 2 月 愛知県教育委員会による博物館登録認可（登録番号 32 号）
- 平成 14 年 7 月 鈴木文雄理事が理事長に就任
- 平成 15 年 1 月 山口静一埼玉大学名誉教授が館長に就任
- 平成 16 年 4 月 シルバー料金の設定、中学生以下の無料化を実施
- 平成 17 年 3 月 小笠原日出男理事が理事長に就任
- 平成 18 年 3 月 米国ボストン美術館と当財団との間で、平成 21 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までの名古屋ボストン美術館の運営を規定する運営契約書を新たに締結
- 平成 18 年 10 月 馬場駿吉名古屋市立大学名誉教授が館長に就任
- 平成 18 年 10 月 第 1 回企画展検討委員会を開催
- 平成 19 年 4 月 学校法人賛助会制度スタート
- 平成 19 年 8 月 三菱商事アートシップ制度スタート
- 平成 21 年 4 月 新メンバーシップ制度スタート
- 平成 22 年 6 月 佐々和夫理事が理事長に就任
- 平成 23 年 4 月 公益認定登記を行ない、公益財団法人に移行（佐々和夫理事長が評議員会長に就任）
- 平成 23 年 4 月 個人寄附制度スタート
- 平成 26 年 4 月 開館 15 周年記念式典開催
- 平成 26 年 6 月 古角保評議員が評議員会長に就任

## I. 展覧会事業

### (1) 第35回展「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 — 印象派を魅了した日本の美」

会期	平成27年1月2日(金)～5月10日(日) (平成26年度より継続)
主催	名古屋ボストン美術館、ボストン美術館、NHK名古屋放送局
後援	外務省、米国大使館、在名古屋米国領事館名古屋アメリカンセンター、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所
協賛	損保ジャパン日本興亜
協力	日本航空、日本貨物航空、近畿日本鉄道、東海旅客鉄道、名古屋市交通局、名古屋鉄道、アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、エスカ、中部国際空港、ユニモール
<p>本展覧会では、19世紀後半から20世紀初頭にかけて欧米で巻き起こった「ジャポニスム」をテーマに、欧米の芸術家が日本美術から何を学び、どのように取り入れ、新たな美を創造したのかを、世界屈指の印象派と日本美術を有する米国ボストン美術館のコレクションから紹介した。モネ、マネ、ドガ、ロートレック、ルノワール、ゴーギャン、ゴッホといった名だたる画家たちの油彩、版画作品と、彼らを虜にした日本の浮世絵や工芸品とを対比させる形式をとり、幅広いジャンルの作品計148点を展示した。</p> <p>展示はテーマで分けた5章立てとし、「第一章 日本趣味<sup>ジャポネズリー</sup>」、「第二章 女性」、「第三章 シティ・ライフ」、「第四章 自然」、「第五章 風景」の順で構成した。図録とやや順番を変更してそれぞれの作品がより印象的に鑑賞できる位置で展示を計画、また照明においても照度上限の異なる浮世絵と油彩を並列で展示するために壁に色経師紙を用いることで光のムラを目立たせなくする工夫など、効果的な配置に努めた。</p> <p>図録はNHKおよびNHKプロモーションが発行し、編集は両社に加えて、当館を含む開催各館の学芸員が行った。米国ボストン美術館のヘレン・バーナム氏(版画・素描・写真部 キュレーター)、ジェーン・E. ブラウン氏(版画・素描・写真部 企画調査研究員)、エミリー・A.ビーニー氏(ヨーロッパ美術部 アシスタント・キュレーター)、世田谷美術館学芸員の遠藤望氏によるエッセイの他、各開催館学芸員による多彩なコラム、作品解説、作家解説、関連年表も掲載した。また、NHKおよびNHKプロモーションによる音声ガイド(スペシャル・ナビゲーター:長谷川博己(俳優))も作成された。さらに、映像資料2本(展覧会紹介内容および「ラ・ジャポネーズ修復物語」)も、レクチャールームにて上映した。</p> <p>15周年記念の年を締めくくる本展では、写真撮影付き特別鑑賞会やワークショップと講演会の組合せなど初めての試みとなる企画をはじめ、数多くの関連イベントを実施し好評を得た。</p> <p>開館時から展示を待ち望んでいたクロード・モネ《ラ・ジャポネーズ(着物をまとうカミーユ・モネ)》は、修復後世界初公開となる目玉作品のため、メディアの注目度も高く、主催のNHKや新聞や雑誌で多く取り上げていただいた。</p> <p>一方で、「ジャポニスム」という言葉が一般の来館者に馴染みがなく、《ラ・ジャポネーズ》がモネによる作品であることが想定より認知されていないことがお客様からの問合せなどで分かった。このため会期中盤からは、分かりやすい情報発信に重点をおいて実施。美術ファンのみならず、広く多くのお客様に美術館に足を運んでいただくためには、展覧会のタイトル等をより一層工夫する必要を感じ、今後に生かす反省を得た展覧会となった。</p> <p>関連イベントとして、4月4日に小林久見子氏(アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会)によるゲストレクチャー、4月18日には、フェノロサ研究の第一人者で当館前館長の山口静一氏による講演会を開催した。その他、期間中には出品作品のぬりえ(2種)、ナボンとうさぎのヒント・ブックのほか、「Go!Go!家族でびじゅつかん」の期間にはクイズシート、「七宝ってナンダ?」、「心の眼で見る体験」など様々なプログラムを実施した。</p> <p>Facebook ページでは、出展作品から美術の人気ジャンルである「印象派」「浮世絵」の作品紹介、イベントの告知・報告、ミュージアムグッズやANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋とのコラボメニューの紹介など、引き続き旬な情報発信を行った。</p>	
新聞記事	中日新聞:半2段(広告)4/15 朝日新聞:「美博ノート」3連載(夕刊)4/8、4/15、4/22
テレビ	NHK:スポット放送、「さらさらサラダ」4/7
雑誌他	『那古野』(3・4月号、5・6月号)



(2) 第36回展「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクトー 明治ニッポンの美」

会期	平成27年6月6日(土)～8月30日(日)
主催	名古屋ボストン美術館、ボストン美術館、日本経済新聞社、テレビ愛知
共催	中日新聞社
特別協力	東京藝術大学
後援	米国大使館、在名古屋米国領事館名古屋アメリカンセンター、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所
協賛	東レ、トヨタ自動車
協力	日本航空、近畿日本鉄道、東海旅客鉄道、名古屋市交通局、名古屋鉄道、ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋、エスカ、中部国際空港、ユニモール

本展覧会は、近代日本美術を語る上で重要なコレクションを所蔵するボストン美術館と東京藝術大学の作品によって、1853年のペリー来航から1904年の日露戦争までの激動の時代に展開した美術における「西洋から日本へ」、「日本から西洋へ」という双方向の影響関係を探る内容であった。

本企画は平成21年秋に、当館からボストン美術館と東京藝術大学に対し、それぞれが所蔵する作品を合わせた展覧会の開催を打診することから始まり、東京藝術大学より同大学美術館の古田 亮氏、ボストン美術館よりアン・ニシムラ・モース氏および当館学芸員が参画し、運営面では日本経済新聞社に主催に入っただき実現した。当館にとっては、企画段階から国内の美術館と協働してつくり上げるという初めての展覧会となり、ボストン美術館と国内の主要コレクションを結び付けるという、当館の新たな役割を果たすことができ、大変に意義深い機会になった。

展示構成は、プロローグ「黒船が来た！」に引き続き、以下の5つのテーマを取り上げた；「第一章 不思議の国 JAPAN」、「第二章 文明、開花せよ！」、「第三章 西洋美術の手習い」、「第四章 日本美術の創造」、「第五章 近代国家として」。作品は、ボストン美術館から97作品、東京藝術大学からは54作品の合計151作品(各会場展示総数149作品)が出品された。本展には日本画、油彩画、版画、写真、錦絵、ブロンズ彫刻、木彫、漆工芸品、金工品といった多種類の作品が含まれ、また大きさも直径2cmのコインから全高3m近い木彫までと大小さまざまであった。こうした多種多様な作品を、展示替えや湿度調整などの展示条件を考慮しながら展示を行った。

図録は、芸大美術館ミュージアムショップ／六文舎が発行し、編集は東京藝術大学と名古屋ボストン美術館が行った。エッセイを古田 亮氏とアン・ニシムラ・モース氏が執筆し、章エッセイ、作品解説、作家解説等の執筆は、企画者の4名を中心に各館にて分担し制作した。この図録は、コンパクトな上1,500円という価格設定もあり、大変好評のうちに完売した。また音声ガイドは各館で制作し、解説映像は当館独自で制作し、期間中レクチャールームで上映した。

関連イベントとしては、展覧会開幕日に古田 亮氏、アン・ニシムラ・モース氏による「明治ニッポンの美—東西の視点から」と題した“ダブル”講演会を実施した。また7月には明治の女性の化粧と髪型についてポーラ文化研究所学芸員の津田紀代氏の講演会を開催した。その他、期間中にはナボンとうさぎのヒント・ブック、ぬりえを提供し、日米アート交流プログラム、視覚障害者向けプログラム、夏休みには「Go! Go! 家族でびじゅつかん」といった各種のプログラムを実施した。

東京を皮切りに巡回展となった本展では、東京展とは違ったアプローチで広報展開をした。ポスター・チラシでは、当館の主軸の来館者層である女性をターゲットにし、女性が描かれている作品、河鍋暁斎《地獄太夫》と黒田清輝《婦人像(厨房)》の2点をメインイメージとした。その他には人気の高い横山大観、菱田春草などの作家名も目立つように配し、メインタイトルの「ダブル・インパクト」よりもサブタイトルの「明治ニッポンの美」を大きく取り扱う事で、わかりやすい広報物になった。また、今回は藝大作品の展示替えが2回あったため、違う作品をまた見に来ていただこうと、展示替えパネルや、展示替え作品の画像をHPなどで紹介し、リピーターを促す努力をした。販促のイベントとしては、愛知県内のデザイン専門学校が制作した衣装を活用した3階ロビーでの撮影スポット「なりきりコーナー」をはじめ、名古屋市主催の夏休みイベント「金山タイムトンネル」にも積極的に参加して、多くの小中学生に展覧会を楽しんでもらう機会を得た。

本展は平成27年4月4日から5月17日まで東京藝術大学で、その後当館で開催された。

新聞記事	日経新聞：社告：6/1、特集記事：6/6、「美術館・博物館」：6/10、「アートライフ」6/21、窓8/12、5段広告：5/17 他多数 中日新聞：社告：6/1、開幕記事：6/6、半2段広告 6/17 他、2連載：上 6/30・下 7/1、文化欄 7/21、岐阜版：「なごや情報宅急便」5/30 他 毎日新聞：「アート」7/11、プレゼントコーナー：7/20 朝日新聞：「なごやカルチャー」8/5、「プラス・シー」：8/9
テレビ	テレビ愛知：CM(15秒)スポット、ニュース：6/6 中京テレビ：CM(15秒)スポット BS日テレ：「ぶらぶら美術・博物館」5/1 TV東京：「美の巨人」5/9
ラジオ	CBCラジオ：「名古屋市だより」7/25 ZIP-FM「I Love Nagoya」7/17
雑誌他	『和楽』8月号(図録紹介)、『婦人公論』7月号、月刊『書道界』7月号 広報なごや、那古野、日経インテレッセ、東海ウォーカー、咲楽、いきいきライフ、ショッパー他 びあサイト、FASHION PRESS, CJキューブ他

(3) 第37回展「ボストン美術館 ヴェネツィア展 - 魅惑の都市の500年」

会期	平成27年9月19日(土)～平成28年2月21日(日)
主催	名古屋ボストン美術館、ボストン美術館、NHK名古屋放送局
共催	中日新聞社
後援	アメリカ大使館、イタリア大使館、在名古屋米国領事館名古屋アメリカンセンター、愛知県、名古屋市、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所
協賛	東海東京証券
協力	日本航空、日本貨物航空、近畿日本鉄道、東海旅客鉄道、名古屋市交通局、名古屋鉄道、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、エスカ、中部国際空港、ユニモール
<p>本展覧会は、ヴェネツィアが繁栄の絶頂にあった1500年前後から現代までの約500年間にこの地で生まれた絵画、版画、水彩画、写真、書籍、染織品、そしてガラスなどの多様な作品約130点から、その芸術活動の軌跡をたどるものであった。ボストンとヴェネツィアが築いてきた文化的な関係の歴史を背景に、ヨーロッパ美術部部長フレデリック・イルチマン氏が入念に練り上げたアイデアによってボストン美術館内に点在するヴェネツィア関連の作品同士が結びつき、ヴェネツィア芸術の多面性を紹介する本展覧会が誕生した。</p> <p>展示構成は、「第一章 比類なき都市」、「第二章 描かれた祈り」、「第三章 ヴェネツィア様式」、「第四章 芸術家たちを魅了する町」の4つからなり、500年の時代を追ってだけでなく、過去と現在を行きつ戻りつ、4つのテーマに沿ってヴェネツィア芸術の多様性や奥深さを呈示した。</p> <p>図録はNHKおよびNHKプロモーションが発行し、編集は両社と当館が行った。フレデリック・イルチマン氏を含めボストン美術館の4名が執筆したテキストは、東京藝術大学教授越川倫明氏の監修のもと、8名が翻訳した。また、日本側からは越川氏とともにひろしま美術館と当館の学芸員がコラム等を執筆した。音声ガイドおよび解説映像は巡回館共通で制作した。</p> <p>関連イベントとしては、展覧会開幕日にフレデリック・イルチマン氏による講演会を実施した。また、11月には越川氏に、平成28年1月には馬場館長による講演会を実施した。その他、期間中にはナボンとうさぎのヒント・ブック、ぬりえを提供した。また、恒例の「Go! Go! 家族でびじゅつかん」(11月)、「Go! Go! カップルでびじゅつかん」(2月)に加え、クリスマスにあわせた絵本の読み聞かせのプログラム、活版印刷を体験するプログラム、ヤマザキマザック美術館とのペアトーク、視覚障害者向けプログラムなど展覧会の内容にあわせたプログラムを実施した。</p> <p>観光地として人気があり、“水の都”や“ゴンドラ”などで知られるヴェネツィアの美術作品を紹介する本展では、来館者が既に持つイメージを呼び起こしながら展覧会に興味を持たれるような広報媒体を制作した。加えて、ヴェネツィア・ルネサンスの巨匠ティツィアーノと、一般の来館者に馴染みのある画家モネが出展されることを分かりやすく文字で示した。</p> <p>カーニバルをテーマとするイベントの他、映画上映会やコンサート、近隣施設との相互割引など、来館の動機を広く用意し、どの企画も好評を得た。ベビーカー・ツアーは、日頃育児で落ち着いて観覧できないお母さんの特別鑑賞会として高い評価をいただき、学校法人賛助会の学生限定の写真撮影付特別鑑賞会は、学生の賛助会利用促進とSNS投稿を目的として好評を得た。加えて、子供たちの来館促進を目的として教員無料鑑賞期間も実施した。これら初めての試みとなるイベントを開催したことはたいへん意義深く、今後の展覧会でも定着を目指す。</p> <p>主催のNHKの協力を得て、テレビスポットや情報番組により東海地方に広く告知することができ、5か月の会期を通して一定のペースでご来館いただけた。</p> <p>本展覧会は、当館開催後、ひろしま美術館(平成28年4月9日～6月12日)、佐川美術館(6月25日～8月28日)新潟県立近代美術館(9月10日～11月27日)に巡回する。</p>	
新聞記事	中日新聞:9/7、9/19、10/3(岐阜版)、半2段(広告)10/2、11/13、1/15、2連載11/7、11/10 朝日新聞:「美博ノート」3連載(夕刊)11/11、11/18、11/25 毎日新聞:10/3、12/5
テレビラジオ	NHK:スポット放送、「東海ピックアップ」10/31、「新日曜美術館 アートシーン」11/1、「おはよう東海」10/10
雑誌他	『サライ』(9月号)、『秋びあ』、『ジャパントイムズ for WOMEN』(Vol.6)、『新美術新聞』(9・11月号)、『Nagoya Calendar』(9月号)、『咲楽』(10月号) 中日WEB連載「達人に訊け!」(全7回)

(4) 第38回展「ルノワールの時代 - 近代ヨーロッパの光と影」

会期	平成28年3月19日(土)～8月21日(日) (平成28年度へ継続)
主催	名古屋ボストン美術館、ボストン美術館
共催	中日新聞社
後援	米国大使館、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、 在名古屋米国領事館名古屋アメリカンセンター、愛知県、名古屋市、 愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、名古屋商工会議所
協賛	サンゲツ、リンナイ、中京テレビ放送
協力	日本航空、近畿日本鉄道、東海旅客鉄道、名古屋市交通局、名古屋鉄道、 アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会、 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋、エスカ、中部国際空港、ユニモール
<p>本展覧会は、ルノワールが生きた19世紀後半から20世紀初頭にかけての美術において、産業革命後の近代化が進んだヨーロッパの生活がどのようにとらえられたかを紹介するものである。都市はたくさんの娯楽があり、明かりが照らす夜の街でも人が活動を続けているというイメージ、一方、田舎は穏やかな時間が流れる場所という都市と田舎のイメージがつくられた。同時代を生きたルノワール、ミレー、コロエ、ドーミエ、ドガ、モネ、キルヒナーらのボストン美術館所蔵の87点と国内のルノワールの作品の2点の全89点で芸術家が社会背景からどのような影響を受けて描いたかを追っていく展覧会となった。</p> <p>序章では展覧会のキーワードである、都市と田舎を象徴する作品としてドガとミレーの作品を配置した。その後「第一章 レアリスムと都会の芸術家」、「第二章 ドーミエと都会のレアリスム」、「第三章 ブルジョワジーと地方への旅」、「第四章 ミューズとしての都市」、「第五章 都市の生活—観ることと観られること」、「第六章 モダニズム、都会への幻滅、避難先としての田園」の6章で構成した。</p> <p>図録は当館で発行し、名古屋造形大学教授の江本菜穂子氏に図録監修をご協力いただいた。エッセーは元ボストン美術館ヨーロッパ美術部部員で現在ウェルズリー大学デイヴィス美術館学芸員のクレア・ワイトナー氏が執筆し、それを補う作家解説やコラムを当館学芸員が執筆・収録した。また展覧会場において鑑賞を助けるために音声ガイド、解説映像を教育産業株式会社に依頼し、制作した。</p> <p>関連イベントとしてクレア・ワイトナー氏の講演会を開催した。今後も講演会、ゲスト・レクチャー、映画上映会などを予定している。その他、期間中は出品作品のぬりえ(2種)、ナボンとうさぎのヒント・ブック、触図(2種)を作成した。</p> <p>ボストン美術館で最も愛され、日本でも人気の高いルノワールの傑作《ブーヅヴァルのダンス》をメインビジュアルにおいて広報を展開した。展覧会タイトルについては、時間をかけて館内で検討を重ねた。英文の展覧会タイトルは、「CITY LIFE/COUNTRY LIFE」であったが、ルノワールが生きた時代の近代ヨーロッパの作品群であることなどから、「ルノワール」をタイトルに大きく扱う事により《ブーヅヴァルのダンス》の画像イメージと合わせて、視覚に訴えるものとした。サブタイトルの「近代ヨーロッパの光と影」、また「都会と田舎」はキャッチコピーとして使用した。展示作品により深く迫る講演会の他、パリを中心とした当時のヨーロッパの衣・食・住を切り口にしたゲストレクチャーや、ルノワールの息子であり映画監督のジャン・ルノワール監督の「ピクニック デジタル・リマスター版」の上映など、様々な角度から「ルノワールの生きた時代」を紹介するイベントを企画した。</p>	
新聞記事	中日新聞:社告3/7、開幕記事:3/19、連載上:3/24、下:3/25、お出かけガイド他
テレビ	中京テレビ:ニュース「キャッチ」3/19
雑誌他	『日経おとなのOFF』1月号、『サライ』3月号、『広報なごや』2、3月号、那古野3、4月号他

※平成28年3月31日までの分につき記載。



## II. 教育普及・情報提供事業

### 1. 印刷物

#### (1) 展覧会図録

- ・「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美  
Looking East: Western Artist and the Allure of Japan from the Museum of Fine Arts, Boston」 A4 変型判 246 頁 NHK/NHK プロモーション発行
- ・「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美  
Museum of Fine Arts, Boston and Tokyo University of the Arts  
Double Impact: The Art of Meiji Japan」  
B5 変形判 199 頁 芸大美術館ミュージアムショップ／六文舎発行
- ・「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の 500 年  
Five Centuries of the World's Most Alluring City from the Museum of Fine Arts, Boston」 A4 変型判 204 頁 NHK/NHK プロモーション発行
- ・「ルノワールの時代 近代ヨーロッパの光と影  
CITY LIFE/COUNTRY LIFE: Light and Shadow in the Age of Renoir」  
A4 変形判 143 頁 名古屋ボストン美術館発行

#### (2) 名古屋ボストン美術館ニュース

- ① No. 56 平成 27 年 5 月 19 日発行
- ② No. 57 平成 27 年 9 月 7 日発行
- ③ No. 58 平成 28 年 3 月 1 日発行

#### (3) 活動報告書

「2014 年度 活動報告書 (Vol.5)」 A4 版、40 頁 平成 27 年 6 月発行

#### (4) セルフガイド・ワークシート・セルフアクティビティ

展覧会	プログラム名	種類	提供形式・参加人数
ボストン美術館 華麗なるジャポニ スム展	「ナボンとうさぎのヒント・ブック」	セルフガイド	中学生以下の入館者に配布 展示室入口に設置
	「ぬりえをしよう！」(2 種)	ワークシート	図書コーナーで実施 5 階に掲出
	「クイズシート」 (各期間 1 種)	ワークシート	Go!Go!カップルで美術館、 Go!Go!家族でびじゅつかん 期間中に配布
ボストン美術館× 東京藝術大学 ダブル・インパクト	「ナボンとうさぎのヒント・ブック」	セルフガイド	中学生以下の入館者に配布 展示室入口に設置
	「ぬりえをしよう！」(2 種)	ワークシート	図書コーナーで実施 5 階に掲出
	「クイズシート」 (各期間 1 種)	ワークシート	Go!Go!カップルで美術館、 Go!Go!家族でびじゅつかん 期間中に配布
ボストン美術館 ヴェネツィア展	「ナボンとうさぎのヒント・ブック」	セルフガイド	中学生以下の入館者に配布 展示室入口に設置
	「ぬりえをしよう！」(2 種)	ワークシート	図書コーナーで実施 5 階に掲出
	「クイズシート」 (各期間 1 種)	ワークシート	Go!Go!カップルで美術館、 Go!Go!家族でびじゅつかん 期間中に配布
ルノワールの時代	「ナボンとうさぎのヒント・ブック」	セルフガイド	中学生以下の入館者に配布 展示室入口に設置
	「ぬりえをしよう！」(2 種)	ワークシート	図書コーナーで実施 5 階に掲出
	「クイズシート」 (各期間 1 種)	ワークシート	Go!Go!カップルで美術館、 Go!Go!家族でびじゅつかん 期間中に配布

## 2. 制作物

### (1) 音声ガイド

- 「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美」\*  
 (導入・作品解説及び特別チャンネル 29 件収録)  
 「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美」  
 (導入及び作品解説 25 件収録)  
 「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の 500 年」\*  
 (導入及び作品解説 26 件収録)  
 「ルノワールの時代 近代ヨーロッパの光と影」  
 (導入及び作品解説 24 件収録)  
 (\*は NHK/NHK プロモーション制作)

### (2) 映像ソフト (ブルーレイおよび DVD、展覧会解説映像)

- 「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美」\*  
 「ラ・ジャポネーズ修復物語」\*  
 「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美」  
 「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の 500 年」\*  
 「ルノワールの時代 近代ヨーロッパの光と影」  
 (\*は NHK/NHK プロモーション制作)

### (3) 立体コピー (触図)

- 「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美」 4 種  
 「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美」 3 種  
 「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の 500 年」 3 種  
 「ルノワールの時代 近代ヨーロッパの光と影」 2 種

### (4) 技法説明ツール

- 「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 印象派を魅了した日本の美」  
 七宝の制作技法・材料説明用ツール  
 「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の 500 年」  
 ガラスの制作技法・材料説明用ツール

## 3. 講演会・関連イベント

### (1) 講演会

・「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」 関連講演会

開催日	タイトル	講師	参加人数
4 月 4 日	ゲストレクチャー 「フランスにおけるジャポニスム -19 世紀から今日まで-」*	小林 久見子氏 (アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会)	40 名
4 月 18 日	「ボストン美術館のジャポニスム」	山口 静一氏 (埼玉大学名誉教授)	103 名

・「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト」 関連講演会

開催日	タイトル	講師	参加人数
6 月 6 日	「明治日本の美 -東西の視点から」	アン・ニシムラ・モース氏 (ボストン美術館 日本美術課長) 古田 亮氏 (東京藝術大学 大学美術館 准教授)	167 名
7 月 5 日	「文明開化と化粧・髪の変化」	津田 紀代氏 (ポーラ文化研究所 学芸員)	95 名

・「ボストン美術館 ヴェネツィア展」 関連講演会

開催日	タイトル	講師	参加人数
9月19日	「ヴェネツィア -魅惑の都市の500年」	フレデリック・イルチマン氏 (ボストン美術館 ヨーロッパ美術部 部長 キュレーター)	104名
11月28日	「ヴェネツィア・ルネサンスの絵画 -特質と革新」	越川 倫明氏 (東京藝術大学 美術学部 教授)	121名
1月11日	「祝祭迷宮都市ヴェネツィアに魅せられて」	馬場 駿吉 (名古屋ボストン美術館 館長)	134名

・「ルノワールの時代」 関連講演会 (平成27年度開催分のみを記載)

開催日	タイトル	講師	参加人数
3月20日	「近代絵画にみる都市と田舎 -ミレー、ルノワールからピカソまで」	クレア・ワイトナー氏 (元ボストン美術館ヨーロッパ部 部員)	169名

会場は名古屋都市センター11階ホール (\*は当館レクチャールーム)

(2) ワークショップ・その他

展覧会	プログラム名	講師・ナビゲーター	開催日	場所・募集人数(当日参加人数)
ボストン美術館 華麗なる ジャポニスム展	視覚障がい者向けイベント	当館学芸員	① 4月8日 ② 4月22日	図書コーナー／展示室 ① 4名 ② 4名
	Go!Go! 家族でびじゅつかん		4月25日～5月6日	
	心の眼で見る体験	当館学芸員	4月29日	展示室／レクチャールーム 5組 10名
	七宝ってナンダ?	当館学芸員	5月5日	図書コーナー 10名
ボストン美術館× 東京藝術大学 ダブル・インパクト	Go!Go! カップルで美術館		6月30日～7月7日	
	日本画&油絵ってナンダ?	当館学芸員	7月7日	図書コーナー 8名
	Go!Go! 家族でびじゅつかん		7月18日～8月30日	
	日本画&油絵ってナンダ?	当館学芸員	① 7月29日 ② 8月5日	図書コーナー ① 15名 ② 15名
	日米アート交流プログラム 「ハイカラモダン～ドレスをデザインしてみよう」	日置 菜津美氏 (愛知県立芸術大学デザイン科 非常勤講師 ひよ企画代表)	7月25日	展示室/レクチャールーム 20名
	視覚障がい者向けイベント	当館学芸員	① 8月21日 ② 8月26日	図書コーナー／展示室 ① 5名 ② 4名
ボストン美術館 ヴェネツィア展	Go!Go! 家族でびじゅつかん		10月31日～11月8日	
	ガラスってナンダ?	当館学芸員	① 10月7日 ② 11月4日 ③ 12月2日 ④ 1月13日 ⑤ 2月10日	図書コーナー ① 8名 ② 5名 ③ 4名 ④ 4名 ⑤ 6名
	視覚障がい者向けナンダ?	当館学芸員	① 10月23日 ② 11月7日 ③ 1月20日	図書コーナー／展示室 ① 4名 ② 3名
	おはなしえほん ～クリスマスってなあに?	つくしの会	12月19日	図書コーナー 19名
	Go!Go! カップルで美術館		12月22日～1月3日 2月5日～2月14日	
	古き良き活版印刷体験!	印刷博物館	1月30日	図書コーナー 19名

#### 4. 学芸員によるミニ・レクチャー

- (1)「ポストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト」 ミニ・レクチャー  
平成 27 年 6 月 20 日 35 名、7 月 11 日 40 名、8 月 8 日 41 名
- (2)「ポストン美術館 ヴェネツィア展」 ミニ・レクチャー  
平成 27 年 10 月 10 日 38 名、11 月 14 日 40 名、12 月 12 日 38 名、  
平成 28 年 1 月 16 日 40 名

#### 5. 大学・その他との連携事業

##### (1) 南山大学エクステンション・カレッジとの連携

南山大学が生涯学習教育を目的として開校しているエクステンション・カレッジと連携し、当館開催の展覧会や活動に関連した講座「まるごと楽しむ名古屋ポストン美術館」を実施した。

○平成 27 年度春期 南山大学エクステンション・カレッジ公開特別講座企画

受講登録者数：28 名 場所：名古屋ポストン美術館 レクチャールーム及び展示室

開講日	テーマ	担当
6 月 17 日	明治ニッポンの美 -ダブル・インパクト展を楽しむ（展覧会見学あり）	井口 智子 井上 瞳 鏡味 千佳
6 月 24 日		
7 月 1 日		
7 月 8 日	ヴェネツィアの誘惑（ヴェネツィア展予告編）	馬場 駿吉
7 月 15 日	七宝ってナンダ？	井上 瞳 三輪 祐衣子

○平成 27 年度秋期 南山大学エクステンション・カレッジ公開特別講座企画

受講登録者数：37 名 場所：名古屋ポストン美術館 レクチャールーム及び展示室

開講日	テーマ	担当
10 月 14 日	ポストン美術館 ヴェネツィア展 -魅惑の都市の 500 年（展覧会見学あり）	宮永 郁恵
10 月 28 日		
11 月 11 日	ガラスってナンダ？	井上 瞳
11 月 25 日	ポストン美術館の歴史/浮世絵コレクションについて	柳澤 宏美 鏡味 千佳
12 月 9 日	ヴェネツィア展 -魅惑の都市の 500 年- 多彩な芸術を楽しむ	井口 智子 三輪 祐衣子

##### (2) ヤマザキマザック美術館とのペアトーク

平成 25 年度より、ヤマザキマザック美術館（名古屋市東区）と双方の館の展示作品を軸に、作品について学芸員同士が対話形式で解説を行うペアトーク企画を始めた。本年度は当館において 12 月 6 日に「ポストン美術館 ヴェネツィア展」、12 月 20 日にヤマザキマザック美術館で開催中の「聖なる風景 -ルネサンスからルオーまで」で実施した。

## 6. ポストン美術館との共同教育プログラム（日米アート交流プログラム）

「ハイカラモダン～ドレスをデザインしてみよう」

日時：7月25日 13：00～16：00

講師：日置菜津美氏（愛知県立芸術大学非常勤講師・ひよ企画代表）

平成16年度より継続している、当館と米国ポストン美術館に来館した子供たち同士の交流を目的とした共同教育プログラムの12回目。

本年度は「ダブル・インパクト」展に展示された楊洲周延の錦絵に注目し、明治時代の華やかなファッションをテーマにドレスをデザインする「ハイカラモダン～ドレスをデザインしてみよう」を開催した。開催後、当館とポストン美術館双方で作品を展示し、その後参加した子供たちにメッセージを添えて返送した。（参加者数…名古屋：20名、ポストン：18名）

## 7. ポストン美術館芸術大学（SMFA）との交流

平成23年2月にポストン美術館芸術大学と愛知県立芸術大学が芸術交流に関する協定を締結した。当館は、この芸術国際交流を協定締結時から支援している。

本年度は、平成28年秋に両校が計画している共同展覧会（名古屋で開催予定）への協力を開始。愛知県立芸術大学の担当との打合せ、また平成27年10月にはポストンで行われた打合せにも参加した。

## 8. レクチャー、出張講座、学校教員研修会、愛知県鑑賞学習普及事業への協力

当館では、平成24年度より「鑑賞学習普及事業：鑑賞補助ツール開発」（愛知県鑑賞学習普及事業実行委員会・愛知県美術館）の実行委員会協力館として愛知県鑑賞学習普及事業に参加してきた。昨年度より同事業の関連事業として愛知県立名古屋盲学校が実施した、学校の職員の資質向上を目的に美術館・博物館と連携を行う「センター的機能充実事業」に参画している。本年度は、同校の教員と愛知県美術館、名古屋市美術館の学芸員が実施した授業にかかわり、内容の準備および授業後の協議に参加し、効果的な授業運営、教員と学芸員の連携の仕方等を話し合った。

また例年通り、来館団体向けを中心に、展覧会会期中を通じてレクチャーを実施した。

## 9. 資料交換

平成21年度より、近隣及び国内の美術館・博物館と資料交換を実施。原則として年一回、前年度に開催した展覧会図録等を寄贈している。また、平成23年度より活動報告書を作成。国内の主な美術館、博物館、大学へ送付している。

本年度は展覧会図録・活動報告書をあわせて75の機関へ送付した。また、国内の美術館、博物館、大学等関係機関から図録・研究紀要等あわせて309冊を受贈した。



## 10. 広報・販売促進 イベント

### (1)「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」関連イベント

開催日	イベント	内容	場所 参加人数
4月1日	ラ・ジャポネーズで「ハイ、ポーズ！」	・《ラ・ジャポネーズ》の打掛を再現した衣装をまとして記念撮影を行う企画。回を重ねるごとに参加者が増えた。	3階ロビー 約50名
4月3日	入場者5万人達成イベント (開幕より79日目)	・5万人目の来館者には館長より展覧会図録やオリジナルグッズなどの記念品を進呈し、展覧会の感想などのコメントをいただいた。またイベントの様子を当館Facebookページでも紹介した。	4階展示室前
4月9日	宗次ホール×名古屋ボストン美術館 提携企画コンサート 「ラ・ジャポネーズコンサート～名曲と名画を一緒に楽しむ」	・出展作品をスクリーンに投影しながら、ドビュッシーらジャポニスムの時代に生まれた音楽をチェロとピアノで演奏。コンサート前には、担当学芸員が展覧会の見どころを紹介した。	宗次ホール 約310名

### (2)「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト」関連イベント

開催日	イベント	内容	場所 参加人数
6月6日～ 8月30日 (会期中常設)	「ドレスアップ・コーナー」 写真スポット	・展示作品に合わせて、明治時代に流行したバウンスル・スタイルのドレスを再現し、来館者に着て楽しんでもらった。 (衣装の制作協力)名古屋ファッション・ビューティ専門学校	3階ロビー
6月13日 (閉館後)	愛知県下公立・私学小中学校 教員研修	・美術教育だけでなく、社会科の教材としても活用いただける内容とした。 ・先生方には本展覧会への理解を深めていただくため担当学芸員によるギャラリーガイド、ガイダンスを開催した。	展示室内 及びレクチャールーム 28名
8月7日～ 8月9日	「金山ぐるりタイムトンネル 2016」 (主催:なごや子どもまちかど文化プロジェクト実行委員会)	・主催は「なごや子どもまちかど文化プロジェクト実行委員会」であるが、ここ金山駅周辺でのイベントであり、展示作品の時代に近い「明治・大正」がテーマであることから、積極的に参加した。 ①スタンプラリー台の設置(プレゼントの絵はがきはボストン美術館の作品画像を使用)②ミルクホールでのミニレクチャーなど。	金山相互駅 周辺

開催日	イベント	内容	場所 参加人数
8月11日	入館者3万人達成イベント (開幕日より57日目)	・3万人目の来館者には館長より展覧会図録やオリジナルグッズなどの記念品を進呈し、展覧会の感想などのコメントをいただいた。日本経済新聞に取材・報道していただいた他、当館 Facebook ページでも紹介した。	4階展示室前
8月21日	「まちかどコンサート」 (主催: 名古屋フィルハーモニー交響楽団)	・音楽にあふれた賑わいのある街づくりを目指して名古屋フィルハーモニー交響楽団が主催する「まちかどコンサート」。当館の展示にあわせて、明治時代と同時期に活躍した作曲家による楽曲を15:30、17:30の2回にわたり演奏した。	1階インター コモン *各回150名超

(3)「ボストン美術館 ヴェネツィア展」関連イベント

開催日	イベント	内容	場所 参加人数
9月19日～ 平成28年2月21日 (会期中常設)	「なりきり・カーニバル」 写真スポット	・ヴェネツィアで冬に開催される華やかなカーニバルの雰囲気を経験していただこうと、ファッションを専攻する専門学校の学生に協力を得て衣装(5着)を用意。 ・会期を通して参加できる企画として、多くの来館者に記念撮影を楽しんでいただいた。写真撮影の機会提供は、SNSによる口コミを狙いつつ、体験することで鑑賞をより印象づける企画となった。	3階ロビー
9月19日～ 平成28年2月21日 (会期中)	「ゴンドラと堀川水辺を守る会」との 相互割引	・ゴンドラの保存と水辺風景の美化緑化を目的に名古屋・堀川でゴンドラ体験乗船を行う「NPO 法人 ゴンドラと堀川水辺を守る会」と相互割引を実施した。 ・HPとFacebook ページで相互に紹介し、よりヴェネツィアを身近に感じていただける企画となった。	/
10月20日	宗次ホール×名古屋ボストン美術館 提携企画コンサート 「マンドリンで旅するヴェネツィア」	・ヴェネツィアに縁がある楽器・マンドリンで「帰れソレントへ」、「ゴンドラ・ゴンドラ」、「オー・ソレ・ミオ」などイタリアにまつわる楽曲の数々を演奏。コンサート前には、担当学芸員が展覧会の見どころを紹介した。	宗次ホール 約310名
10月24日、 平成28年 1月24日	映画上映会「カルロ・ゴルドーニ 世界の大劇場ヴェネツィア」	・イタリア文化の普及活動を行うダンテ・アリギエーリ協会の協力(DVDの無料貸出)により、18世紀イタリアを代表する喜劇作家であり、近代演劇の父と謳われるカルロ・ゴルドーニ(1707-93)についてのドラマ・ドキュメンタリー映画を上映した。 ・ヴェネツィアの美しい街並みに加え、舞台衣装や音楽もお楽しみいただいた。	5階レクチャー ルーム 41名、39名

開催日	タイトル	内容	場所 参加人数
10月26日	ベビーカー・ツアー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館を遠慮しがちなベビーカーに乗る赤ちゃん連れの保護者を対象に、美術館でゆったりとした時間を過ごしていただくことと休館日の午前中を利用して開催。</li> <li>・将来にわたってお子様と一緒に美術鑑賞を楽しんでいただくため、当館で実施している子ども向けの企画や取り組みも紹介した。</li> </ul>	45名 (大人25名・乳幼児20名)
11月3日	市民会館とのコラボコンサート 「戸谷誠子ピアノコンサート～印象派を含めた名曲」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーグナー、リスト、ドビュッシー、ショパンら印象派の時代の音楽を中心にピアノで演奏した。</li> </ul>	音楽プラザ 約80名
11月21日、 12月19日	学校法人賛助会 写真撮影付プレミアム鑑賞会 「マスカレード・ナイト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示作品2作品と写真撮影、カーニバル衣装を着て写真撮影、オリジナル仮面制作、ヴェネツィア・レースをイメージしたネイルシールプレゼントを特典として提供した。(対象)学校法人賛助会 会員の学生</li> </ul>	3階ロビー 4・5階展示室 117名、76名
11月23日～ 11月29日	愛知県下公立小中学校 教員無料鑑賞期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方に本展覧会への理解を深めていただき、当館をより一層利用いただくため、教員無料鑑賞期間を実施した。</li> <li>・11月23日には当館学芸員によるレクチャーを開催した。</li> </ul>	教員無料鑑賞 期間280名 *11月23日 25名
・3万人: 12月3日 ・5万人: 平成28年 2月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入館者3万人達成イベント(開幕日より65日目)</li> <li>・5万人達成イベント(開幕日より115日目)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4階展示室前で実施。該当者には来館者には館長より展覧会図録やオリジナルグッズなどの記念品を進呈した。</li> <li>・展覧会の感想などのコメントをいただき当館 Facebook ページでも紹介した。</li> </ul>	4階展示室前
12月13日	クリスマス・コンサート♪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名古屋フィルハーモニー交響楽団の打楽器奏者に協力を得て実施。</li> <li>・クリスマスからアメリカ、イタリアにまつわるオリジナルのプログラムを楽しいトークを交えながら展示室内で演奏した。</li> </ul>	4階展示室内 30名 *立ち見スペース 約50名
平成28年 1月2・3日	お正月お楽しみ抽選会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空くじなしでホテル食事券や展覧会オリジナルグッズの景品を用意した。</li> </ul>	2日間の 来館者数 1,200名
平成28年 1月23日～ 1月31日	カーニバル・ウィーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地でカーニバルが開催される時期に開催し、会期末に向けての集客対策とした。</li> <li>・期間中は当日入館料金を200円割引とし、オリジナルの仮面を制作できるコーナーも用意。Facebook ページでも現地の写真やカーニバルにまつわる豆知識を紹介して盛り上げた。</li> </ul>	期間中の 来館者数 4,077名

#### (4) ルノワールの時代」 関連イベント

開催日	タイトル	内容	場所 参加人数
平成 28 年 3 月 19 日～ 8 月 21 日 (会期中常設)	なりきりコーナー・写真スポット 「ブーヅヴァルな男子と Shall We Dance?」	・本展のメインビジュアルであるルノワールの傑作《ブーヅヴァルのダンス》に登場する女性の衣装を、ファッション専攻の学生に協力を得て2着制作。絵の中でダンスを踊っているような雰囲気を体験していただくことを企画した。	3 階ロビー

### 1 1. その他情報提供事業

#### 館内掲示（ポストンコーナー）

- ・「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」時…「東洋美術コレクション」
- ・「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト展」時…「東洋美術コレクション」
- ・「ボストン美術館 ヴェネツィア展」時  
…「ヨーロッパ美術コレクション」+「衣装・染織部コレクション」

いずれも開催中の企画展を担当する部のコレクションを紹介するもので、米国ボストン美術館には当館で展示している以外にも広範なコレクションがあることを知っていたく機会を提供した。

#### ホームページと Facebook ページ

ホームページは、主催メディアが制作した展覧会公式ページとの連携、当館での特設ページの制作など、展覧会ごとに柔軟に運用するよう努めた。本年度は、会期が約5か月と長い「ボストン美術館 ヴェネツィア展」で特設ページを制作し、紙媒体とイメージを合わせて早めかつ会期を通しての広報を心掛けた。

開設してから3年を迎えた Facebook ページでは、「旬」な情報を発信することを意識しつつ情報発信を続けている。平成 28 年 3 月末時点で「いいね！」数は 4,352 人で、前年同時期より 935 人増加。美術館への親近感を高め、ファンをつくる媒体として、今後も活用していきたい。

### Ⅲ. メンバー及び法人賛助会の状況

#### 1. 個人メンバーシップ

名古屋ボストン美術館のファン層拡大、市民の美術館を目指し、平成10年10月に発足した「名古屋ボストン美術館メンバーシップ」制度は、年間を通じてお客様の幅広いご支持を得て、平成27年度は339名の新規会員の申込をいただき、平成28年3月末での会員数は前年度末比34名増の3,419名となった。

#### 2. 法人賛助会員

「名古屋ボストン美術館法人賛助会員」制度は平成12年1月に発足。平成28年3月末時点での会員数は、246社/712口（1口5万円）と、前期末3社減/4口の増加となっており、引き続き数多くの会員様よりご理解とご協力をいただいている。

#### 3. 学校法人賛助会

学校法人賛助会制度は、平成19年度の開始以来、現在まで愛知県下の主要大学を中心に利用されており、平成28年3月末時点では過去最高の27グループ計58校の大学・短大・専門学校・高校が当制度に加盟し多くの学校法人からご支持をいただいた。本年度は新たに賛助会制度の普及を目的とした写真撮影付プレミアムイベントを実施し、来館した学生・教職員は13,991名を数えた。

### Ⅳ. 企画展検討委員会

当館で開催される企画展は、開館当初は米国ボストン美術館側が主体的に内容等を決定する仕組であったが、平成18年10月に、平成21年4月以降に開催される企画展のテーマ選定や展示品の数、主要作品等について、地元関係者等と米国ボストン美術館側の代表者が事前の協議を行う場として、企画展検討委員会が設立された。具体的には、企画展検討委員会は、企画展の主要作品について米国ボストン美術館に対して推薦を行うことができ、米国ボストン美術館は、同委員会の推薦を十分に考慮しつつ、最終決定を下す権利を有することになっている。

同委員会は、当財団の評議員会長および事務局長が出席し、年1～2回の頻度で開催されてきた。平成27年度は、8月28日に第17回委員会が開催され、直近展覧会の状況報告に加え、今後開催が予定されている展覧会の内容につき議論が行われた。

なお、平成28年3月末時点での企画検討委員会のメンバーは、以下の通り。

アナ・ベルソー	(米国ボストン美術館巡回マネージャー)
長谷川仰子	(米国ボストン美術館関係者)
村田 眞宏	(豊田市美術館館長)
島 敦彦	(愛知県美術館館長)
神谷 浩	(名古屋市博物館副館長)
土崎 正彦	(美術コーディネーター)
長谷川幸実	(愛知県美術館友の会)
清水 裕之	(名古屋大学大学院教授)
西原 健二	(中日新聞社事業局文化事業部長)
富田 英之	(東朋テクノロジー株式会社代表取締役社長)
馬場 駿吉	(名古屋ボストン美術館館長)



## V. ミュージアムショップ事業

美術館3階においてミュージアムショップを運営。スカーフ、ネクタイ、アクセサリ、書籍など、米国ボストン美術館より輸入したオリジナル商品のほか、名古屋ボストン美術館独自に作製したポストカードや文具、菓子等のオリジナル商品、その他企画展の内容に合わせた一般商品を取り揃え販売している。

平成27年4月から5月10日の期間中「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」では6,667千円、6月6日から8月30日まで開催の「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト」では7,183千円、9月19日から平成28年2月21日開催の「ボストン美術館 ヴェネツィア展」では13,499千円、3月19日から31日の期間中「ルノワールの時代」では2,769千円の売上を計上した。

具体的な商品内容については、「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展」では、女性のお客様の比率が多いことを想定し、展覧会に関連する商品プラス、スカーフ、アクセサリ関連を強化するため、アメリカのボストン美術館から約6,764ドル分の商品を輸入し、豊富に取り揃えた。「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト」では、開催時期からお子様、学生が多いことを想定し、玩具やお値打ちな雑貨を展開。また、東京芸術大学ミュージアムショップから関連の書籍、ステーションナリー関連を手配し、好調に推移した。

「ボストン美術館 ヴェネツィア展」では、展覧会に関連するステーションナリー、洋菓子、ヴェネツィアンアクセサリ、書籍を展開。クリスマスシーズンには、ガラスドームやリース関係などを中心としたオーナメント、年始には福袋を展開し、お客様からの反応も良かった。現在開催している「ルノワールの時代」では、オリジナルポストカード12種、A4クリアファイル2種、ダブルクリアファイル、チケットファイル4種、トートバッグ、ブックカバー、マグネット2種、洋菓子2種を作製した。

他にはない、見られない、ここでしか買えないオリジナル商品は希少性も手伝って、お客様の関心も高くご自身はもちろん、ギフトとしてのニーズも高い。今後もお客様のニーズに合わせたオリジナル商品を提案し、購買率、客単価を上げると同時に、企画展の内容に合わせた魅力的な商品を多数取り揃えて展開することで、売上増加に努めていく。

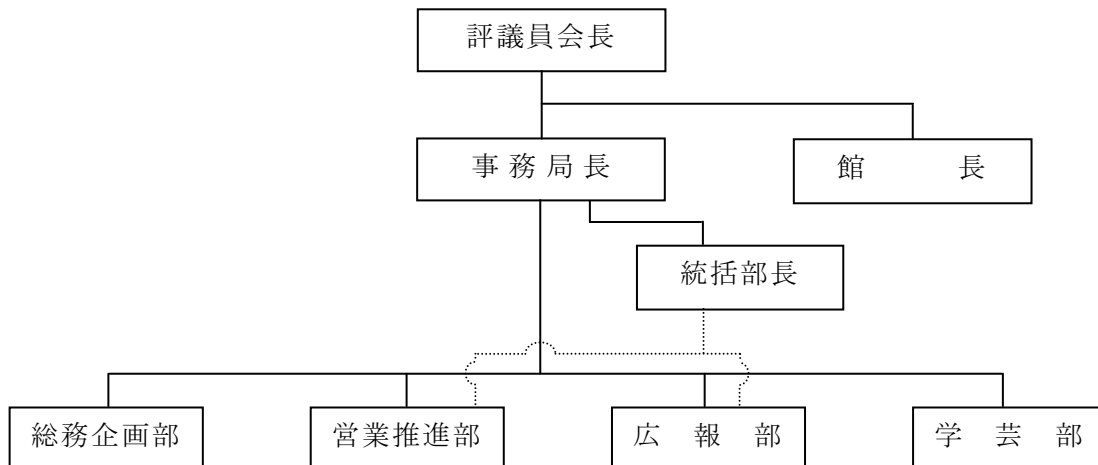
## VI. 展覧会入場者数

展 覧 会 名	会 期	入 場 者 数
第35回展 「ボストン美術館 華麗なるジャポニスム展 -印象派を魅了した日本の美	平成27年4月1日(金)～ 5月10日(日) *会期は平成27年1月2日より	29,096名
第36回展 「ボストン美術館×東京藝術大学 ダブル・インパクト 明治ニッポンの美」	平成27年6月6日(土)～ 8月30日(日)	44,075名
第37回展 「ボストン美術館 ヴェネツィア展 -魅惑の都市の500年」	平成27年9月19日(土)～ 平成28年2月21日(日)	60,980名
第38回展 「ルノワールの時代 -近代ヨーロッパの光と影」	平成28年3月19日(土)～ 3月31日(木) *会期は平成28年8月21日まで	8,439名
展 覧 会 入 場 者 数 合 計		142,590名

## Ⅶ. 組織等の状況

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

### 1. 組織図



### 2. 顧問・評議員・役員

#### (1) 顧問 (8 名)

鈴木 礼治	元愛知県知事
神田 真秋	前愛知県知事
大村 秀章	愛知県知事
松原 武久	前名古屋市長
河村 たかし	名古屋市長
岡田 邦彦	元名古屋商工会議所 会頭
高橋 治朗	前名古屋商工会議所 会頭
岡谷 篤一	名古屋商工会議所 会頭

#### (2) 評議員 (10 名)

＝評議員会長＝

古角 保	株式会社三菱東京 UFJ 銀行 顧問
------	--------------------

＝評議員＝

川島 毅	愛知県 県民生活部長
鷺見 卓	株式会社中日新聞社 取締役事業担当
片山 明彦	中部電力株式会社 総務部長
上田 達郎	トヨタ自動車株式会社 常務役員
宮村 喜明	名古屋市 市民経済局長
細谷 孝利	名古屋商工会議所 専務理事
柴田 浩	名古屋鉄道株式会社 専務取締役広報部長兼総務部長
菅 康弘	日本放送協会名古屋放送局 局長
ニーナ・パール	ボストン美術館 理事

#### (3) 役員 (21 名)

＝代表理事＝

清水 泰晴	公益財団法人名古屋国際芸術文化交流財団 事務局長
馬場 駿吉	名古屋ボストン美術館 館長

＝理事＝

後藤 由紀夫	愛知県教育委員会 生涯学習監
鈴木 康史	愛知県 県民生活部次長
半澤 重信	建築家
小澤 正俊	大同特殊鋼株式会社 相談役
瀧 昌之	瀧定名古屋株式会社 代表取締役社長
滝 茂夫	タキヒヨー株式会社 代表取締役会長
藤崎 博也	東京大学 名誉教授
佐伯 卓	東邦ガス株式会社 代表取締役会長
白石 好孝	東陽倉庫株式会社 代表取締役会長
豊島 半七	豊島株式会社 代表取締役社長
清水 順三	豊田通商株式会社 相談役
西淵 茂男	名古屋市教育委員会 教育次長
横井 政和	名古屋市美術館 館長
千田 博之	名古屋市 市民経済局副局長
内川 尚一	名古屋商工会議所 常務理事・事務局長
松下 裕秀	名古屋大学 理事・副総長
加藤 延夫	名古屋大学 名誉教授
キャサリン・グレイザー・ゲッチェル	ボストン美術館 副館長
藤森 利雄	名港海運株式会社 代表取締役社長

＝監事＝

齋木 博行	愛知県 県民生活部 県民総務課長
石原 真二	石原総合法律事務所 所長
安藤 重良	名古屋商工会議所 監事

### 3. 職員

統括部長兼広報部長		藤田 健一	(株式会社三菱東京UFJ銀行より出向)
営業推進部	部長	小嶋 浩嗣	(名古屋商工会議所より出向)
		水野 聖子	
総務企画部	部長	梅林 正	(株式会社三菱東京UFJ銀行より出向)
	課長	江坂 聡子	(名古屋商工会議所より出向)
	(兼務)	水野 聖子	
広報部	課長	鶴田 徹	(名古屋鉄道株式会社より出向)
	課長	那須 晶子	
		佐々木 絵美	
学芸部	部長・学芸員	井口 智子	
	係長・学芸員	鏡味 千佳	
	学芸員	宮永 郁恵	
	学芸員	三輪 祐衣子	
	学芸員	柳澤 宏美	

#### 4. 評議員・役員の異動

##### (1) 評議員の異動

平成 27 年 4 月 17 日

(新任) 愛知県 県民生活部長

川島 毅

(退任) 愛知県 県民生活部長

寺澤 義則

平成 27 年 7 月 22 日

(新任) 株式会社中日新聞社 取締役事業担当

鷺見 卓

(退任) 株式会社中日新聞社 取締役事業担当

森 要造

(新任) 中部電力株式会社 総務部長

片山 明彦

(退任) 中部電力株式会社 執行役員総務部長

藤井 良直

##### (2) 理事の異動

平成 27 年 4 月 17 日

(新任) 愛知県教育委員会 生涯学習監

後藤 由紀夫

(退任) 愛知県教育委員会 生涯学習監

溝口 正己

(新任) 名古屋市 市民経済局副局長

千田 博之

(退任) 名古屋市 市民経済局副局長

芝 康夫

(新任) 名古屋大学 理事・副総長

松下 裕秀

(退任) 名古屋大学 理事・副総長

鮎京 正訓

平成 27 年 5 月 27 日

(新任) 大同特殊鋼株式会社 代表取締役会長

小澤 正俊

(退任) 大同特殊鋼株式会社 特別顧問

高山 剛

#### 5. 職員の異動

(転出) 総務企画部課長

福谷 貴代

(名古屋商工会議所より出向)

(転入) 総務企画部課長

江坂 聡子

(名古屋商工会議所より出向)

(新任) 学芸部・学芸員

柳澤 宏美

(退職) 学芸部・課長 学芸員

井上 瞳

## 6. 評議員会・理事会開催状況

### (1) 評議員会

日 時	場 所	議 件
臨時評議員会 平成 27 年 4 月 17 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評議員の選任に関する件</li> <li>・ 理事の選任に関する件</li> </ul>
臨時評議員会 平成 27 年 5 月 27 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理事の選任に関する件</li> </ul>
第 9 回定時評議員会 平成 27 年 6 月 12 日	名古屋都市センター 「ホール」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 26 年度事業報告に関する件</li> <li>・ 平成 26 年度収支決算に関する件</li> <li>・ 評議員・理事・監事の選任に関する件</li> </ul>
臨時評議員会 平成 27 年 6 月 19 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評議員会長の選任に関する件</li> </ul>
臨時評議員会 平成 27 年 7 月 22 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評議員の選任に関する件</li> </ul>
第 10 回定時評議員会 平成 28 年 3 月 24 日	名古屋都市センター 「ホール」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度事業計画に関する件</li> <li>・ 平成 28 年度収支予算に関する件</li> <li>・ 経営安定化基金の取り崩し準備金への指定 および運用財産への繰り入れに関する件</li> </ul>

### (2) 理事会

日 時	場 所	議 件
臨時理事会 平成 27 年 4 月 9 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨時評議員会を開催する件 ＜評議員会の目的事項＞</li> <li>・ 評議員の選任に関する件</li> <li>・ 理事の選任に関する件</li> </ul>
臨時理事会 平成 27 年 5 月 20 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨時評議員会を開催する件 ＜評議員会の目的事項＞</li> <li>・ 理事の選任に関する件</li> </ul>
第 9 回通常理事会 平成 27 年 5 月 28 日	名古屋都市センター 「ホール」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 26 年度事業報告に関する件</li> <li>・ 平成 26 年度収支決算に関する件</li> </ul>
臨時理事会 平成 27 年 6 月 12 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>＜理事会の決議目的事項＞</li> <li>・ 代表理事の選任に関する件</li> <li>・ 臨時評議員会を開催する件 ＜評議員会の目的事項＞</li> <li>・ 評議員会長の選任に関する件</li> </ul>
臨時理事会 平成 27 年 7 月 14 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨時評議員会を開催する件 ＜評議員会の目的事項＞</li> <li>・ 評議員の選任に関する件</li> </ul>
臨時理事会 平成 28 年 1 月 15 日	決議の省略による	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 10 回定時評議員会を開催する件 ＜評議員会の目的事項＞</li> <li>・ 平成 28 年度事業計画に関する件</li> <li>・ 平成 28 年度収支予算に関する件</li> <li>・ 経営安定化基金の取り崩し準備金への指定 および運用財産への繰り入れに関する件</li> </ul>
第 10 回通常理事会 平成 28 年 3 月 23 日	名古屋都市センター 「ホール」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成 28 年度事業計画に関する件</li> <li>・ 平成 28 年度収支予算に関する件</li> <li>・ 経営安定化基金の取り崩し準備金への指定 および運用財産への繰り入れに関する件</li> <li>・ 国内旅費規程および国外旅費規程の改定に 関する件</li> <li>・ 特定個人情報の取扱規程制定に関する件</li> </ul>



## 附属明細書について

平成 28 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 28 年 5 月

公益財団法人 名古屋国際芸術文化交流財団